

でもこれだけでございしますが、おやうく現在の状況から見て、定数に達するよりは、なかなかにへんではないかと思います。したがって、これも私も広報あるいは市のお知らせで呼びかけております。さらにまた、冒に入りますと広報によっても呼びかけていきたいと思います。したがって、歳入それと歳出にも影響があるわけでございますが、その場合によつては、これ等も補正によりましてご審議を願うということになるかと思いますが、市としましてはこの定数につきましては極力努力いたしまして満たしていただきたいと考えております。

○庶務課長（生子 国利川君） 松山さんのお質問にお答えします。

十ハページの土木使用料の件でございますが、今回の予算では百六万八千円の減額に、確かなっております。これは、甲八年度の当初、道路使用料として占用使用料として百万をおやうく組んだと思います。これが途中において変更になりまして、その分とそれから野球場の使用料というものがこの土木使用料に入っておたんですが、本年度から教育使用料の中に野球場の使用

用料としておやうへ回っておりますので、実質的には市営住宅のみが今回の住宅の使用料ということとで先ほどの七号補正で予算の減額になっておりますけれども、ほぼ同じような使用料になっております。

それから引き続きまして、九ページの住宅費の中で市営住宅の測量というふうな予算をとっております。これは昨日一般質問にも出しましたように、住宅の高層化というものが叫ばれております。それらを考えてみまして、やはり財産的にやうなものの把握をすることとを前程にわたした場合に、用地の測量をまずしておこうということと、今回を新にそれらの関連をもたせまして、一応財産の測量をしてみようということとでございます。以上でございます。

○市民課長（田村 忠雄君） 自席からお答え申し上げます。

十ハページの自衛官の募集関係でございますが、ご承知のよう、自衛官の募集事務の窓口は、市民課の窓口でございます。実際には立川の募集事務所が近くにござ

がいますので、直接申し込みはそれぞれに行っているようにございますが、四十八年度につきましてはまだはきりわかりませんが、四十七年度の実績で申し上げますと、応募しなかったのが十人でございます。入隊者が四人でございます。

○経済課長（森田 進君） 十番議員さんのご質問にお答え申し上げます。

市民生活安定本部のことに付いてでございますが、ご案内のようには昨年の暮れから非常に物資の不足、あるいは物価の高騰というふうなパニック状態が続きまして、このことに関連しまして市役所ぐるみ、市ぐるみの一応対策本部という形で設置いたしました。情報の提供であるとかあるは福生市内での活動、それから市民課を通じての非常に不足した物資の無償提供というふうなものを実施したわけでございますが、本年度予算につきましては、八十六ページに消費生活費がございしますが、あくまでもやはり市民をやり、生活を守るということが生活本部のねらいでございます。こういうふうなものを一応勘案いた

しまして昨年に比較しまして、このような新しく家庭菜園の問題であるとか、あるいはまた二十六市あるいは二十三区、それから東京都の各出先き機関、あるいは本庁、そういう所とも情報の交換等を一応積極的に実施していきたい、そういうふうなことでここに予算化したわけでございます。今後でも経済面でいろいろな問題が予想されるわけでございますが、そういう場合については、弾力的に生活安定本部の中で具体案をねりまして、市民生活を守るということで考えております。

それから産直の問題でございますが、この産直については一応中間マージンをはくというふうな形が一応産直のねらいであるし、いわゆる福生市場、それから総合卸売市場、それから地方卸売市場、そういう形で、

それから小売商という形が現在一つの流通経路のパターンでござ
います。それからもう一つは、実際に生産者からいかに消費者の
手元、それが応酬でござりますが、ご案内のように、福生に
つては大型店が進出してきて、小規模小売業者、それ
うふうな問題も非常に問題になってきておりますが、一応
考え方をしまして市内にある市場、それからもう一つは、ま
すので、そういうものを合わせて小売り業者にとりま
だけ、安いのを市民に提供できるような形で扱われれば、産
直の問題とそれから一つは商業振興におつたって、くるんでは
ないか、というふうな考え方から現在、準備を進めておるわけ
でございます。市場については話し合がついておるわけであり
ます。それから小売り店については市場単位での組織でござ
います。福生市としての、たとえば八百屋の組合であるとか、あるは魚屋
の組合であるとか、そういうふうなものがござります。それ
うものについての、まだ話し合ひ等が、これからもう一つ段階でござ
います。それからもう一つは、具体的な段階で予算等



について計上して、できるならば、四十八年度に補正策に載せて実施してまいりたいと考えております。

○環境保全課長（八木 房雄君） 自席からお話しをさせていただきます。

まず七十四ページの公害対策関係費でございます。デジタル騒音計でございますが、この点につきましては電池というようになっております。よく管理しておきますと一週間くらい動くことになっております。したがってその関係につきましては、とくにまいてみるだけでよろしいということになります。なお私どもにもあります測定機は設置しておけば自動的にその測定ができるというふうな機械になっております。なおバスの件でございますが、四十八年度でバスを公害対策費で購入いたしました。したがって、おかげさまでゴミ減量運動におきましては公害という問題を十分活用させていただきます。以上、簡単でございますが、終わります。

○教育委員会学務課長（古川 英君） 眼科の見通しでございます。

すが、これは小中一統でございますのであわせて、三月八日に都府県事務的な説明会が初めてございまして、これをもちまして、決断する場合におきましては、一校六万円程度含まれております。というふうに想定されております。都で補助金を四万円、それから自己財といたしまして二万円というふうな点も三月八日説明会がありまして、それで時期的に間に合いませんので、今回補正予算に当初予算には計上せず、補正予算に計上させていただきます。ただ、行く、行なう、こういうことでは、なお実施時期につきましては、一学期末の予定でございます。

○教育委員会庶務課長（内田 和雄君） センターの改造問題でございますが、現在のセンターを改造ということになりますと、やはり総合的なセンターの建設ということになると思っております。現状のセンターを改造して、ということの問題は、おかげさまで職員の話所、つまりましては、昨年冷房等も入れましてプレハブではございますが、改造できないわけでございます。現在使っております三小の裏のセンターの換気等につきましては、これは現在のところ

換気扇等を充実して、このほかは改造できても、いんではな
いか、というふうな考えでございます。

それから七小の開校にあつて、現在のセラーに於いては七小開校
によりますとちよつと処理が不可能でございますので、現在一小
の給食室を改良いたしました。一小をまかなつて、このふうな
ことで、来年度はこゝしよりは処置数が減つてまいりますので、
このうゝ点下で承つたでございます。

建設課長（黒田 登君） 労働費の中の燃料費でございますが、
矢野の方でございますけれども、石油、ガス等はほとんどの使用
いたしません。したがつて古材等を私ども買つていたわけでは
すけれども、農家からの家屋を取りこわしました古材等もち
つておりますので当面それで間に合ふんじゃないか、ということで、計
上いたしました。なお交通安全施設整備事業の資料
というの要求でございますが、これにつきましても建設委員会
にご決定後、最終日ですがご提出いたします。

企画財政課長（上野 重勝君） 松山議員さんのお質問にお答え

申し上げます。

まず第一点の超過負担の問題についてですが、昨年度超
過負担について資料を渡しましたが、確か三千五百万円前後
だったと思います。本年度におきましては建設費の値上がり
あるはまた国のほうの建設単価の変更等で、現状のところ正確
な数字は出ておりませんが、ただ建設事業のいわゆる自己負担
支出分の建設費用が減つておりますので、自己負担については三
千万円前後であらうというふうな推定はしております。

それから次に、需用費の伸びの関係ですが、指摘のとおり
需用費につきましては六三〇程度の伸びになっております。個
々の物品の単価等につきましても、昨年と比較をいたしますと
相当上がつております。たとえば最も代表的な用紙等につきま
しては前年度におきましては四百円前後であつたものが、本年度は
一千円程度になつてゐるということで、これは大幅な二〇〇％以上の値
上がりでございます。それからカソリン等におきましては五十五円程
度のものが七十五円、あるいはまた鉛筆類は百二十円程度のものが

百六十円になつて、灯油等におきましても一般の使用価格にほるとい
りことで、平均にしますと三五%程度の値上げになつてゐるので
はないかと推定してあります。

次が公債費の関係でございますが、本年度の公債費の総額が一
億五千六百万円というところでございます。一般に公債比率と言つてお
りますのが、その段階の公債比率はどのくらいでいいかということば、
その税収入と地方交付税を合わせた額の大体二〇%が限度額で
あるというふうにいわれております。したがしまして、三億二千万
円程度が福生市の公債比率の限界であらうというふうに考えて
おります。現在一億六千万円ということでございますので、なお
相当の余裕をもつております。それから従来財政の面から比
較をいたしましたして、公債比率の伸びというものは大体九%前後に止
まつておりますので、現状では先ほどの心配はしなくていいと考
へております。

それから庁舎の積み立て金の関係ですが、昨年度三千万
円積み立ててございます。それから庁舎建設特別委員会

も設置をしていただきました。いろいろご検討いただいております。
その中で、私も現在昭和六十年度を目途といたしまして、市
の総合計画を作成中でございます。これは市長の施政方
針の中でも述べられてゐるとありでございしますが、やはり庁舎
の建設計画等につきましても、これらの総合計画と関連をして
定めることが的確なものであらうというように判断をいたしてありま
すので、その中で目下検討中でございますので、具体的は
問題については本年度中に方針を打ち出したというふうになつて
おります。

○教育委員会社会教育課長（小野 光朗君） 図書館の件についてご
答弁申し上げます。

昨年度当初五百万円でございましたが、補正でもつて百五十
万円、計六百五十万円でございます。それで昨年度約一万
冊程度買ってございます。これは現在の図書館が中央館で
ございまして、やはりある程度体育館はレジャー的なもの
をござらんといふか、福祉会館のほうは教材図書とかある程

度カラーを出してございまして、本来中央図書館によりますとある程度基準的のもの書籍がそろっているということと、とりあえず四十九年度は平均一千円程度で購入し、なお昨年度の図書出版によります単価によりますと、一千二百円ということでございますけれども、現実の福生の図書館の単価でございますとかなり安くっております。それと先ほど宮沢議員さんにお答えいたしましたんですが、青少年協と地区活動の補助金でございますけれども、一地区昨年度が二万円を本年度二万三千円とご答弁申し上げたんですけれども、平均一地区昨年が二万五千円でございます。ところが二万七千円と平均単価にならということに訂正、おわび申し上げます。

○議長（石川 信義君）

午後二時五十五分 休憩

十五時十分まで休憩いたします。

午後三時

開議

○議長（石川 信義君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

福生市議会

す。

○十番（松山 清君）

再質問させていただきます。

弥生保育園の問題なんです。定員に対して四〇％くらい、の申し込みしかないと、いうことですが、建設する場合に当然市としても補助金を出すわけですが、建設場所等について十分指導されてきながら、どうか私は疑問に思うわけです。当初からそういう懸念があなたの方にはなかったかと思えます。確かに保育園がたかさんできて皆さんが入れたいというわけですが、四〇％くらいでこのまま今後見通しがなかったら、いうことになれば経営して、る人自体が浮き上がってしまう感じになるのじゃないかと思えます。それでは申しわけないと思えますし、指導がどういうふうになっているのかお聞きしたいと思えます。

それから自衛官の募集の問題については、立川市直接行った方で入隊したという答弁じゃなかったと思えますが、私は福生の窓口に来た人がいるかどうかというのを聞いたんですが、いはないということなんですか。もしないと思えばあえてわざわざ



わけであることもないわけですがこの点についてお聞きしたい。

それから市常任委員の高層化の問題ですが、高層にするような向の発言、答弁があつたわけですが、やはり住んでいる方の意向というのを非常に尊重していかなければならぬ問題ではないかと思ひます。単に土地利用の問題だけで済まされたい問題だと思ひますので、この問題については十分住民の意向を聞いてやっていただきたいと思います。

最後に図書の問題ですが、今回一冊の単価が千円というところで五千冊ということですが、これとても実際に行つて見ますと、まだまだ棚が空いている状態です。非常に努力されてゐるんですが、まだ足りないと私は感じるわけです。そういう点でありこれに働く人たちも苦勞されていふ本の数もふえてゐるわけですが、そういうものを十分に整備してやるために今後お努力をしていただきたいと思ひます。

○福祉事務所長（森田猛君） 弥生保育園のことについてご答弁いたします。



施設につきましては、弥生保育園ばかりではなくて当初一年間は非常に苦しいのではなかつたかというふうなわけでも申し上げてゐるわけです。それでなお福祉における保育率の問題ですが、約一八％、これが真に保育にかけてゐるようば少々遠くても希望者はあるわけだと思ひますので、その辺のところは問題があるのではないかと、うふうに考えてゐるわけではなかつたかと思ひます。せっかくできたリッパは施設でございまして、その下わけわれも最大限の努力をしていきますので、本年度はちよつと無理な面もあるかと存じますが、定員数に近づけるよう努力したいと思ひます。

○市民課長（田村忠雄君） 自衛官の問題でございしますが、先ほど

立川の募集人員ということでも直接の申し込みと申しましたが、窓口のほうには数名が毎年みえております。ただ申し込みは直接立川の募集事務所の方へ行つたのであります。

○庶務課長（生子国利君） 高層住宅の問題につきましては、昨日市長から答弁がございまして、現に計画してありますので、後日発表したいと思ひますので、ご承願したいと思います。

○十番（松山 清君）

保育問題については私も厚生委員です。で、委員会で十分いろいろとお聞きしてやりたいと思います。これで私の質問は終わらせていただきます。

○十九番

（大野 行次君）

歳入歳出全般にわたってお伺いをいたしますが、

回しか申しませんでよくお聞きください。（笑あり）

まず十三ページの市税でございますが、この市税につきましては均等割と所得割についてどのような比例になっておりますか、ただしこの中で他市との基準算定割合というものがあって、各市ごとに違ふと思いますがその関係がどのようなふうにあるかお願いたします。またこれに対する滞納繰越金が四十八年度におきましては一七・〇四九年二・八％という数字になっておりますが、この関係を十三ページの二項目を含めて助役より説明をお願いいたします。

次に固定資産税についても同じでございます。

四十八年度、四

十九年度の「比例」を見ますと何か少し水が背伸びをしているように感じられるわけです。中でも土地分については緑化推進等

の関係がございまして、このような問題がここから下ってくるのではないかと思います。これがどのような関係のもとにこれを基準にされるかをお願いたします。

次に十三ページのたばこ消費税ですが、さっき、議員さんからおありましたけれども税務課長からは「入当り」というような数字がございましたけれども実際よりも十万余本という件数になるわけですが、その関係をお願いいたします。

十三ページの特別土地保有税の関係につきまして緑化推進運動がからんでくるのではないかと思いますので、その関係をお願いいたします。

それから十七ページの民生費の負担金でございますけれども、現在焼失してあります若葉保育園の再建計画についてどのような考え、また市としてのどのような補償方法を持っておられますかお願いたします。

次が二十四ページの入院助産の措置費でございますけれども、現在の産婦の入院については十五万円ぐらいの費用がかかるといいます。

す。それについて市として、これらの人達に対して無利子の貸し付け
あるいはその他の援助制度を今後持たせる計画があるかどうかあ
願いたします。

歳出についてお尋ねいたします。

六十二ページの老人福祉費でございますが、昨日市長が、福祉
ということを申しておりました。老人が専門に住む居室等に対
して増築資金等の貸し付け制度を何か考えらるような計画
を持っておられますかどうかお尋ねいたします。

次に六十三ページ国民年金の事務費の中でございますけれども、国
民年金の再開五年年金加入という関係で、年金加入者で保険料
を支払えない人に対して市で貸し付け制度をつくらうかと思いま
すが、この考え方を願いたします。

次に九十九ページの消防ポンプ車の関係でございますが、熊川
の第一分団だと思いますが、非常に危険な車を使っているわけ
です。あの車は四〇キロ以上スピードが出せないような構造の車
でございますが、消防車を購入するときにはどのような点検



どのような検査をもち、これを購入して各分団に与えておりますか
その点をお願いたします。また同じページの中で緊急放送の
件でございますが、一千万、二千万という数字のものを、使ってこの設
置を行っておりますが、ただ緊急時をなくして、でき得るもので
あったり市一般の放送などにも役立てたうなおいいのではないかと思
いますが、今後この関係についてどのような考えを持っておられるかお願
いたします。

次に百二十ページですけれども、今年から市民体育大会が総
合体育大会と三回分かれて行なわれるのかどうか、これは申しわけな
いけれども説明のほうにそのようになっておりますのでお願いたしま
す。

次に百二十三ページの体育館の備品の件でございますけれども、
当時特別委員会におきまして一十二百万円の備品購入費を
決定してこれを当局に送っておると思えますけれども、本年八百万
円の計上になっておりますがその関係について、どのようなことにな
るか説明をお願いいたします。